

## 「学校社会と職業社会」

～高P連全道大会の講演を視聴した意見交換～

北海道網走南ヶ丘高等学校PTA

札幌大谷大学教授平岡祥孝先生の「子どもの進路に親ができること」の講演を視聴後、本校のPTA役員を中心に「学校社会と職業社会」のテーマで意見交換を行いました。

最初に、「学校社会と職業社会」の2つの社会を繋ぐコーディネーター役が重要であるという意見が出されました。その役目こそ、親の役割であり、PTAの役割であるという認識で一致しました。

実際に子供の進路指導については、「学校任せ、本人任せ」になっている面は否定できないとの意見もあり、そのような現状を改善するためには、親が「職業社会」で生きている立場に立ち、職業人としての心構えや仕事のことを話す場面を増やし、子供とコミュニケーションをとることが重要であると考えられました。

しかし、私たち親の中には、子供に伝える自信がないと話す親も多いのです。

こうした現状を踏まえ、学校とPTAが連携し、夏季休業中等でPTAが主体となった模擬面接を企画することが提案されました。保護者と教員、学校評議員や同窓会等三者一組で面接官を務め、模擬面接を通して、子供の職業に対する意識を理解することで、「職業社会人として子供を見る視点」を養うことができます。

さらに、この経験を家庭に持ち帰り、自らの言葉で子供に語りかけることで、保護者が「学校社会と職業社会」を繋ぐ役目を果たし、学校と地域、家庭が連携した進路指導ができるのではないかという結論にまとまりました。

最後に、今回のご講演を通して、親の立場で子供の進路に関わることの重要性について教えていただいた平岡祥孝先生に心より感謝申し上げます。

